

# Michael Vaiman

## ミヒヤエル・ヴァイマン



オデッサ(ウクライナ)生まれ。故郷の名高いストヤルスキ音楽学校を卒業後、チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院にて、伝説的な指導者であるダヴィッド・オイストラフとセミヨン・スニトコフスキーのもとで研鑽をつむ。

ミヒヤエル・ヴァイマンは、テクニックの素晴らしさと共にヴァイオリンの詩人と評され、特に気品のある明瞭な音と音楽に対する造詣の深さに定評がある。

特筆すべきは、ベートーヴェンやブラームス、プロコフィエフ、フランク・シューマンのヴァイオリンソナタ全曲を含む、彼のレパートリーの広さである。

また、シューベルト、ショスタコーヴィチ、シマノフスキのヴァイオリンとピアノデュオ曲

やバッハとイザイの無伴奏ヴァイオリンソナタ等の他、多くのヴァイオリン協奏曲もレパートリーに含まれる。

ミヒヤエル・ヴァイマンは、ボリス・ティシチェンコ、レオニード・ホフマン、ドミートリー・スミルノフ、エレナ・フィルソヴァ等の数多くの現代作曲家たちの作品を初演者している。

彼はイスラエルで室内楽団を結成し、1991年～96年にかけて運営・指揮を執った。

現在は、ソロおよび室内楽奏者として、アメリカ、ドイツ、フランス、イタリア、日本、イスラエル、ポーランド、ウクライナ、ロシア等で演奏を行う。

ギュンター・ヘルビヒ指揮ベルリン交響楽団、ユーリ・シモノフ指揮モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団、アルヴィド・ヤンソンス指揮サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、ユーリ・バシュメット指揮モスクワ・ソロイスト、サウリス・ソンドツキス指揮リトアニア室内管弦楽団、ロンドンソリスト室内楽団、東京ソリスト室内楽団等とのヴァイオリン協奏曲協演は、彼の国際的なキャリアの中で注目すべき点である。

クフモ(フィンランド)、トゥール(フランス)、エルバ島(イタリア)、ニューヨーク・サミット・ミュージック・フェスティバル等の多くの室内楽音楽祭に参加し、パウル・バドゥラ＝スコダ、ユーリ・バシュメット、海老彰子、マリオ・ブルネロ、ディーナ・ヨッフエ等の国際的に活躍する音楽家たちと共演。また、バービカン・センター(ロンドン)、サル・プレイエル(パリ)、モスクワ音楽院大ホール、東京文化会館等の著名なホールにてオーケストラとの協演やリサイタルを行う。

1980年よりモスクワ音楽院のセントラルミュージックスクールに教え始める。1989年からテルアビブのルービン音楽院教授、1995～1999年愛知県立芸術大学客員教授。1999年よりケルン音楽大学にて教授を務める。

モーツァルテウム音楽大学夏期国際音楽アカデミー、王立ノーザン音楽大学(イギリス)、中央音楽学院(中国)、南メソジスト大学(アメリカ)、ケシェット・エイロン音楽センター(イスラエル)の他、日本やヨーロッパにて数多くのマスタークラスを行っている。

また、マラガ音楽祭&マスタークラス“ミュージカル・サマー”では、芸術監督を務める。

彼の生徒は、スペイン、日本、ドイツ、イスラエル、スイス、アメリカのオーケストラで活躍している。また、彼は、多くの国際音楽コンクールの審査員として招聘されている。

数多くのラジオやテレビ、コマーシャルレコーディングに出演。バッハの無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータやプロコフィエフ、イザイ、シマノフスキ、クライスラー、タルティーニ、ストラヴィンスキー、ヴィエニャフスキ、シューベルト等の作品を収録したCDを発売している。また、バッハやモーツァルト、ショスタコーヴィチ、イザイ、フランク、シューマン等のライブ演奏を収録したDVDもある。